

平成28年度 上越市道徳部 活動報告

部長 丸山 治夫

1 研究主題

「特別の教科道徳」について理解を深め、自校の課題解決に向けた着実な道徳教育の推進
＜今年度の主題設定の理由＞

学習指導要領の一部が改訂され、「考える道徳」「議論する道徳」への転換により、児童生徒の道徳性をはぐくむことを掲げ、「特別の教科 道徳」の取組が始まっている。小学校は平成30年度、中学校は平成31年度から、検定教科書を導入しての「道徳科」完全実施が示されている。そこで、道徳部では本主題を設定し、自校の課題を踏まえた着実な道徳教育の推進を図ることとした。

2 研究の概要

- (1) 8月23日(火) 上越市立教育センター道徳研修会に参加し、研修※
- (2) 10月20日(木) 頸城中学校公開授業・協議会に参加し、研修※
- (3) 11月10日(木) 清里小学校公開授業・協議会に参加し、研修※

※いずれも、上越教育大学大学院教授早川裕隆様からご指導をいただいた。

3 研究の実際

- (1) 頸城中学校の公開授業、研究協議会より

頸城中学校は、「考え、議論する道徳を実現させる授業改善への取組」を研究テーマにして、道徳の授業づくりに取り組んでいる。1年「しあわせ」の実践では、自分の立場をはっきりさせることで、議論しやすい雰囲気を作り出していた。さらにグループの話し合いでは、ルールを提示したり、ホワイトボードに意見を書き込んだりして、話し合いに参加しやすい工夫がされていた。



＜立場を明確にした話し合い＞

- (2) 清里小学校の公開授業、研究協議会より

清里小学校は、上教大早川研究室の支援を受けて、全学級で道徳授業に役割演技を取り入れた実践をしている。3年生「貝がら」では、転校生の気持ちを役割演技で表すことによって、登場人物の気持ちの揺れや葛藤などを考えていた。また、役割演技で創造され深められた役割が新たな自分の在り方として表現され、相手の立場に立って考える姿が見られた。



＜役割演技から心情を考える＞

4 成果と課題

上越教育大学大学院教授早川裕隆様からご指導をいただき、道徳の時間の課題や教科化に至る経過、道徳科の指導や目標、指導計画や評価などについて理解を深めることができた。また、公開授業では、児童生徒が主体的に議論する道徳や役割演技の意義や価値を実践的に学ぶことができた。

道徳部員は、各学校の道徳主任や道徳教育推進教師という責任を負っている。今後、道徳の教科化完全実施に向けて、教科化の理念や指導計画の整備、授業づくりなどを自校の実情に合わせて、組織的に進めていくことが課題となる。